

中学校国語教科書「書くこと」教材の分析

—学習指導要領改訂による変化を中心に—

清 道 亜都子*・柴 田 好 章*

- 1 問題と目的
- 2 方法
 - 2.1 分析対象とする教科書
 - 2.2 分析の観点
 - 2.2.1 教材の概要について
 - 2.2.2 解説文とモデル作品について
- 3 結果と考察
 - 3.1 光村図書の場合
 - 3.1.1 教材の概要について
 - 3.1.2 解説文とモデル作品について
 - 3.2 三省堂の場合
 - 3.2.1 教材の概要について
 - 3.2.2 解説文とモデル作品について
 - 3.3 東京書籍の場合
 - 3.3.1 教材の概要について
 - 3.3.2 解説文とモデル作品について
 - 3.4 教育出版の場合
 - 3.4.1 教材の概要について
 - 3.4.2 解説文とモデル作品について
- 4 総合考察

1 問題と目的

現代社会を生きる上で文章を書くスキルは必要不可欠であり、初等・中等教育で十分身につけることが求められる。しかしPISA調査で、日本の高校生は論理的根拠にもとづいて自分の考えを

* 名古屋大学大学院教育発達科学研究科

表現することが苦手であると明らかにされたように、義務教育段階における書くことの指導が有効に機能しているとはいえない状況がある。この点について本研究では、中学校国語教科書の「書くこと」教材に焦点を当てて考えたい。

平成20（2008）年に、新しい中学校学習指導要領（以下、「平成20年版学習指導要領」と記す）が公示され、平成24（2012）年度から、その内容を反映した教科書が使用される。新版の教科書は、旧中学校学習指導要領（以下、「平成10年版学習指導要領」と記す）を反映した現行の教科書と比べて、どこがどのように変わったのか、比較分析を試みる。

平成10年版学習指導要領と平成20年版学習指導要領で、国語科の教科目標そのものは変わらず、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。」である。この文言中、「伝え合う力」は、「適切に表現する能力と正確に理解する能力とを基盤に、人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉によって伝え合う力」（文部省，1999，p.10）を意味し、平成10年版学習指導要領で重点目標として新たに加えられた。平成20年版学習指導要領でも「伝え合う力を高める」という基本路線は踏襲しつつ、その上で改善が図られたといえる。

平成20年版学習指導要領における「書くこと」に関する各学年の目標は、1年「目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えて的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。」、2年「目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。」、3年「目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。」（下線は筆者による）である。いずれも平成10年版学習指導要領における目標^{（注1）}と違いが見られ、特に下線で示した部分（「目的や意図に応じて書くこと」、「構成（論理の展開）を意識して書くこと」、「書くことによって考えること」）は、全学年に共通して示された。さらに、各学年の「書くこと」の指導事項にも、「材料を分類・整理する」、「根拠を明確にする」、「資料を適切に引用する」、「説得力のある文章を書く」等が加えられた。

今回の学習指導要領改訂にあたって、文部科学省（2008）は、「OECD（経済協力開発機構）のPISA調査など」（p.1）の影響を指摘している。調査結果から、日本の児童生徒には「思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題」（文部科学省，2008，p.1）等に課題があることが明らかにされた。先述した学年目標や指導事項の変更点からも、日本の生徒の課題とされた、論理的な思考力や高度な判断力を養い、それにもとづいて文章表現を行うことを目指した改訂であると考えられる。

また、「国語科改訂の要点」（文部科学省，2008，p.8 - 11）のうち、「学習過程の明確化」と「言語活動の充実」は、「書くこと」領域に関わって特に注目される。

「学習過程の明確化」については、自ら学び課題を解決する能力の育成を重視し、「2内容（1）」の指導事項で学習過程を明確化したこと^{（注2）}や「学習の見通しや振り返りの活動を計画的に取り入れる」（平成20年版学習指導要領総則の第4の2）こと、「言語活動の充実」については、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究できる国語能力の育成を重視し、「2内容（2）」に

日常生活で必要とされる言語活動を例示したこと^(注3)、が指摘されている。

学習指導要領の記載内容が、中学校国語教科書の「書くこと」教材に影響を及ぼしてきたという点は、先行研究(清道, 2010a, 印刷中; 浦上, 2005)で明らかにされている。例えば、教科目標に「伝え合う力を高める」という文言が加えられた平成10年版学習指導要領を反映した教科書では、書いている途中で話し合い活動や書いた文章を読み合い感想を伝え合う活動を扱った教材が、それ以前の教科書と比べて増加した(清道, 印刷中)。したがって、今回の改訂によっても先述した変更点について教科書教材に変化が生じることは十分に予想される。

その一方で、中学校国語教科書の「書くこと」教材については、書くことの指導において有効と思われる内容であっても、学習指導要領に直接記載されていない事柄、例えば、書くという行為が再帰的プロセスであることが十分反映されていないことも明らかになっている(清道, 印刷中)。

書くことに関する認知心理学の研究知見によれば、書くという行為は、プランニング、記述、推敲等の活動が複雑に組み合わさって再帰的に起こる、認知的負担が大きいプロセスである(Hayes & Flower, 1980)。書き手の認知的負担を軽減するために、具体的な手がかりを示すことの効果も実証されている(Scardamalia & Bereiter, 1987等)が、書くことが苦手な者は、思いついたことをそのまま書き、書いた文章を読み返さない傾向が強い(Scardamalia & Bereiter, 1987)。

しかし、「文章を書いて考えを深めようとする」(平成20年版学習指導要領・3年の目標)ためには、書いた文章と書き表したい考えとの間を何度も行き来しながら書くことが不可欠である。そうした書くことの再帰性を端的に表す活動は推敲であるが、過去の中学校国語教科書教材はプランニングの解説が中心で、推敲の扱いが少なかったことも示されている(清道, 印刷中)。また、平成20年版学習指導要領を反映した新版の小学校国語教科書教材でも、他の活動より推敲の扱いが少なかった(清道・柴田, 2011)。したがって、新版の中学校国語教科書教材では、書くことが再帰的プロセスであると言及されているか、推敲の扱いに変化があるか、についても検討しておく必要がある。

なお、本研究では複数の出版社から発行された教科書を分析対象とするが、会社間の優劣を問うことが目的ではない。あくまで各出版社の長所や改善すべき点を明らかにし、いずれの出版社の教材もより良いものへと変えていくための提案をすることを意図した。

以上の議論を踏まえて、本研究においては、中学校国語教科書の「書くこと」教材について、平成10年版学習指導要領が反映された現行の教科書教材を比較対象としながら、平成20年版学習指導要領が反映された新版の教科書教材を分析し、その特徴を明らかにすることを目的とする。

2 方法

2.1 分析対象とする教科書

平成18(2006)年度から平成23(2011)年度まで使用されていた中学校国語教科書(以下、「平成18年度版」と記す)と平成24(2012)年度から使用される教科書(以下、「平成24年度版」と記す)で、平成18年度版と平成24年度版をともに発行している出版社5社のうち、採択率上位4社^(注4)(光村図書、三省堂、東京書籍、教育出版、以下、「光村」、「三省」、「東書」、「教出」と記す)のもの、中学校第1～3学年分24冊を分析対象とした。平成18年度版は平成10年版学習指導要領、平成

24年度版は平成20年版学習指導要領を反映している。教科書はすべて見開きB4判であった。

2.2 分析の観点

教科書の本編部分から、書くことを主な目的とした教材^(注5)を抽出し、(1)教材の概要、(2)解説文とモデル作品、について分析した。

2.2.1 教材の概要について

教材の概要として、(1)ページ数、(2)学習内容、(3)学習目標、(4)学習の見通し、(5)学習の振り返り、という観点から分析した。

ページ数は、他領域(「読むこと」、「話すこと・聞くこと」等)との複合教材であっても、教材に含まれるすべてのページを数えた。

学習内容は、生徒がその教材で学習する内容の概略を記述した。

学習目標は、教材の冒頭に箇条書きで記載されている場合、その内容を評価した。評価にあたって、平成20年版学習指導要領で示された、各学年における「書くこと」の具体的な指導事項から、「書くこと」に関わる活動として、(1)何について書くか、テーマを選ぶ(テーマ)、(2)そのテーマについて何を書くか考え、材料を集める(材料収集)、(3)集めた材料を分類し選択する(材料整理)、(4)文章全体をどのように構成するか考え、組み立てる(構成)、(5)実際に記述する(記述)、(6)書いた文章を見直し修正する(推敲)、(7)書いた文章を使って交流する(交流)、という7種類を指定した。学習目標の記載内容が、「書くこと」に関わる活動7種類(テーマ、材料収集、材料整理、構成、記述、推敲、交流)のいずれに該当するか、当てはまるものをすべて評価した。

学習の見通しは、生徒が学習の流れを把握できるようなフローチャート等が記載されているか、評価した。

学習の振り返りは、生徒が一連の学習を終えた後で振り返りを促す教示があるか、評価した。

2.2.2 解説文とモデル作品について

解説文については、(1)「書くこと」に関わる活動、(2)「書くこと」の性質、という観点から分析した。

「書くこと」に関わる活動は、先述した7種類(テーマ、材料収集、材料整理、構成、記述、推敲、交流)にもとづいて、解説文中で該当する箇所がある場合、その内容を評価した。評価にあたっては、書くことの再帰性に加えて、生徒の認知的負担を軽減しうる手がかりを示しているかどうか、という点にも注目した。

テーマ、材料収集、材料整理、構成は、(a)具体的活動や観点を示しているか、(b)テーマ例、収集した材料例、材料を整理した例、構成例を示しているか、について評価した。具体的活動として、テーマでは、話し合いやマッピング、材料収集では、調査活動(アンケート、インタビュー、文献調査、等)や調べた結果をカードにまとめること、材料整理では、収集したカードの選択やカードの補充、構成では、カードの並び替えやメモの作成、等を想定した。なお、構成は文章その

ものの構成とし、新聞やパンフレットの割り付け等、書いた文章の配置は含めないこととした。

記述は、(a) 下書きすることに言及しているか、(b) 書くときに表現上注意する点を具体的に示しているか、(c) 表現例（よく使う表現一覧、等）を示しているか、について評価した。

推敲は、(a) 具体的観点を示しているか、(b) 修正跡のある文章例や推敲前後の変化例を示しているか、について評価した。

交流は、(a) 書き上げる前に他者との交流活動を設定しているか、(b) 書き終えた後に相互評価の際の具体的観点を示しているか、について評価した。

「書くこと」の性質は、解説文全体を通して、書くことの再帰性に関わる記述があるか、について評価した。

モデル作品については、(1) 下書きか清書か、(2) 脚注があるか、という観点から評価した。

3 結果と考察

3.1 光村図書の場合

3.1.1 教材の概要について

表1は、教材の概要に関する調査結果を示したものである。

平成18年度版、平成24年度版ともに、教材は、「読むこと」や「話すこと・聞くこと」等の教材と混在する形で配置されていた。

平成18年度版から「目標」、「見通し」、「振り返り」を設定した教材が多かったが、平成24年度版では、記載内容がより充実していた。例えば、平成24年度版の「見通し」には、生徒同士の交流活動を行う段階に「交流」マークがつけられた。また、教材の最後には、「目標」に対応した内容を簡条書きで示した「振り返り」に加えて、「生活（他領域や他教科の学習）に生かす」ための教示（例えば、2年の手紙文を書く教材では「年賀状や暑中見舞いのはがきを書く」）も示されていた。

平成18年度版、平成24年度版ともに、各学習指導要領に示された言語活動例は、すべて教材化されていた。

3.1.2 解説文とモデル作品について

表2は、解説文とモデル作品に関する調査結果を示したものである^(注6)。

平成18年度版と平成24年度版で、解説内容が一部異なる類似教材が複数見られた。例えば、1年の報告レポートを書く教材では、大きな課題から具体的な課題へと絞るために、平成18年度版ではテーマ例が示されているだけであったが、平成24年度版では、課題について辞典やインターネットで下調べするという活動が教示されていた。ただし、平成18年度版では、収集した情報をまとめたカード例が示されていたが、平成24年度版では「工夫して記録しよう」という教示だけにとどまっていた。

平成24年度版の教材では、全体的に観点を決めて材料を収集することが重視されていた。例えば、1年『感じたことを文章にしよう』では、絵の鑑賞文を書く前に、観点を決めて作品を見る練習が設定されていた。

推敲については、具体的観点的扱いが増加したが、学校行事の案内文や職場体験学習のお礼状と

いう、形式が決まった文章を書く教材で扱われており、観点は表現・表記レベル、3年の推敲練習用教材（『推敲して、文章を磨こう』）の観点も、ほぼすべて表現・表記レベルであった。2年『立場と根拠を明確にして書こう』では、推敲前後の変化例も示されていたが、長い1文を2文に分けるという表現レベルのものであり、文章の内容を練ることは扱われていなかった。

交流については、平成18年度版では「読み合おう」という抽象的教示に留まっていたが、平成24年度版では、読んで助言し合う際の具体的観点を示した教材が増加した。

平成18年度版、平成24年度版ともに、解説文に書くことの再帰性に関する記述を含んだ教材はなかった。

平成18年度版のモデル作品には本文への書き込みがなかったが、平成24年度版のモデル作品には、文章中の重要部分に傍線がつけられたものもあった。例えば、最近のパラエティー番組について批評した文章（3年『説得力のある考えを述べよう』）では、肯定的評価を述べた部分と否定的評価を述べた部分に色の違う波線が施され、対比的にとらえられるようになっていた。

3.2 三省堂の場合

3.2.1 教材の概要について

表3は、教材の概要に関する調査結果を示したものである。

平成18年度版、平成24年度版ともに、教材は、「読むこと」や「話すこと・聞くこと」等の教材と混在する形で配置されていた。

平成18年度版から「目標」、「見通し」、「振り返り」を設定した教材が見られた。平成18年度版には、生徒同士の交流活動を行う段階に「交流」マークが示されていたが、平成24年度版には示されていない。平成24年度版の「振り返り」では、「学習を通して考えたことや身についたことを振り返り書いてまとめる」という教示の後に、「目標」に対応した内容が箇条書きで示されていた。

各学習指導要領に示された言語活動例は、平成20年版の3年「(ア) 関心のある事柄について批評する文章を書くこと」以外は、すべて教材化されていた。

平成24年度版では、平成18年度版より教材数が大幅に増加し、新聞やパンフレット等の多彩な書く活動が設定されていた。

3.2.2 解説文とモデル作品について

表4は、解説文とモデル作品に関する調査結果を示したものである^(注6)。

平成18年度版と平成24年度版で、解説内容が一部異なる類似教材が複数見られた。例えば、1年『体験文を書こう』について、平成24年度版ではテーマ選びのマップ例や材料収集の観点等が新たに加えられた。ただし、平成18年度版のモデル作品には内容や表現の工夫について考えさせる脚注がついていたが、平成24年度版のモデル作品では脚注がなくなった。

平成24年度版の教材では、材料整理は3年、構成で具体的操作（カードの並び替え）を教示した教材は1年での扱いが多く、学年による差異が見られた。

内容に関する推敲は、2年『手紙文を書こう』と『この人を語る』、3年『私の友情論』を書こう』で扱われていた。このうち『手紙文を書こう』は形式に沿ってお礼状や案内状を書く教材、

『この人を語る』は作品（パンフレット）を作る教材であり、生徒にとって文章の内容を掘り下げにくいのではないかと思われた。

平成18年度版、平成24年度版ともに、交流活動の機会が多く設定されており、モデル作品でも、友だちからのふせんアドバイスのついた下書き例が示されていた。平成24年度版では、感想を伝え合う際の観点を示した教材が大幅に増加した。

平成18年度版、平成24年度版ともに、解説文に書くことの再帰性に関する記述を含んだ教材はなかった。

3.3 東京書籍の場合

3.3.1 教材の概要について

表5は、教材の概要に関する調査結果を示したものである。

平成18年度版、平成24年度版ともに、教材は、「読むこと」や「話すこと・聞くこと」等の教材と混在する形で配置されていた。

平成18年度版では「目標」、「見通し」、「振り返り」が示されていないが、平成24年度版の大教材ではすべて示されていた。「振り返り」では、「目標」に対応した内容が箇条書きで示されていた。

大教材では、その教材で学習する中心的な内容を取り出して練習する活動（「はじめの一步」）が最初に設定されていた。例えば、1年『図表を使って伝えよう』では、図表を効果的に使う方法を練習してから実際に書くという流れになっていた。

平成18年度版、平成24年度版ともに、各学習指導要領に示された言語活動例は、すべて教材化されていた。

平成24年度版の教材では、「課題文に挿絵や図版を入れるとしたら、2種類のうちどちらがよいか」（1年『根拠を明確にして書こう』）、「3つのポスターのうちどれがよいか」（3年『観察・分析して論じよう』）という、非連続型テキストを分析・評価することが扱われていた。

3.3.2 解説文とモデル作品について

表6は、解説文とモデル作品に関する調査結果を示したものである^(注6)。

平成18年度版では、書くときの注意点と課題のみの教材（1年『分かりやすく書こう』等）や調べる活動の解説が中心の教材（2年『調べて発信しよう』）もあったが、平成24年度版では、書くことに関する活動全体を扱った教材が増加し、書くことに関する解説内容も充実した。

例えば、平成18年度版の3年『時を超える手紙』と平成24年度版の3年『今の思いを伝えよう』は、「中学校卒業にあたって、自分を見つめ直し、思いを手紙に書く」という同一課題の教材であった。平成18年度版ではモデル作品と課題の教示のみであったが、平成24年度版ではテーマ選びの観点、テーマ例、収集した材料のメモ例、下書きすることへの言及、推敲の具体的な観点等が加わった。ただし、推敲の観点は表現・表記レベルのものであった。自己省察的な課題内容であることを考えると、内容レベルの推敲に適した教材ではないかと思われた。

材料収集については、平成24年度版のほぼすべての大教材で具体的な観点が示されていた。3年

『編集して伝えよう』では、材料を収集した段階のマップと整理した段階のマップが示され、書き手の思考が可視化されていた。

推敲については、平成18年度版、平成24年度版ともに、内容に関する具体的観点を示した教材はなかった。2年『依頼状やお礼状を書こう』では、推敲が大きく扱われていたが、話し言葉、手紙の形式、敬語に関する間違い直しが中心で、推敲を学習目標とした教材にふさわしいか、疑問に感じられた。

交流については、書き上げる前、書いた後ともに、平成18年度版ではほとんど扱われていなかったが、平成24年度版では大幅に増加した。例えば、書き上げる前には、材料について話し合う活動や下書きを読み合う活動、書いた後に読み合う観点を示した教材も見られた。

平成18年度版には、書くことの再帰性に関する記述はなかったが、平成24年度版の2年『調べて考えたことを伝えよう』では、収集した情報を整理していく中で「最初に設定したテーマを修正してもよい」という、書くことの再帰性が窺われる記述が見られた。

平成18年度版のモデル作品は清書のみであったが、平成24年度版では、友だちの意見とそれをもとに修正した跡のある下書き例（3年『編集して伝えよう』）も示されていた。

3.4 教育出版の場合

3.4.1 教材の概要について

表7は、教材の概要に関する調査結果を示したものである。

平成18年度版、平成24年度版ともに、教材は、「読むこと」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域ごとに、まとめて配置されていた。

小教材は、平成18年度版、平成24年度版ともに、5段階（「選材（平成24年度版は「課題設定・取材）」、「構成」、「記述」、「推敲」、「相互批評（平成24年度版は「交流」）」）に分けられ、段階ごとのスキルが重点的に解説されていた。小教材での「目標」は、5段階のうち、その教材が位置する段階に「今ここを学習しています」という表示がなされていた。「振り返り」の後に「ここで学習したことを日常生活（他教科）で文章を書くとき役立てよう」という教示もあった。

また、平成24年度版の1年小教材では、『書くプロセス0』として、課題設定・取材から交流に至る各段階の内容が簡単に説明されていた。

平成18年度版、平成24年度版ともに、各学習指導要領に示された言語活動例は、すべて教材化されていた。

3.4.2 解説文とモデル作品について

表8は、解説文とモデル作品に関する調査結果を示したものである^(注6)。

大教材、小教材ともに、平成18年度版と平成24年度版で類似した解説内容の教材はほとんどなかった。例えば、平成18年度版の2年『立場を変えて書く』と平成24年度版の2年『立場を決めて意見を述べるには』は、ともに意見文を書くための大教材であった。平成18年度版では、「中学生は大人か子どもか」というテーマで紙上討論をすることが活動の中心であったが、平成24年度版では、課題について考えを深める方法（マッピング）や根拠を挙げて論理的に考える方法（意見、根

拠となるデータ、解釈・考察の関係を示した三角ロジック)等、他の場面で使える手法が具体的に示されていた。

平成24年度版の大教材では、スキルを示すだけでなく、生徒がスキルに対する理解を深め、納得して活用できるような教示が見られた。例えば、1年『情報を選び効果的に伝えるには』では、なぜそのデータを使わなかったか、図表を用いる利点は何か「考えよう」と促されていた。また、図表の内容を文章で表現するための解説があり、数値を示す表現例(「～に達する。」「～にすぎない。」等)も示されていた。

推敲に関する小教材については、平成18年度版では、文種を問わず使用可能な具体的観点の一覧表が示され、自分の体験を物語風に書いた文章を、内容、構成、表現、原稿用紙の使い方、の順に見直すという課題であった(1年『書くプロセス4・ある日のできごと』)。平成24年度版は、学校行事の案内文・報告文(1年)や職場体験学習のお礼状(2年)を書き、観点に沿って推敲するという課題であったが、内容に関する観点はそれぞれの課題に限定的なもの(「行事名や結果など、事実が正確に記されているか」、「会場の様子を説明したり、感想を述べたりしているか」等)で、文章を練るといふより確認するレベルにとどまっていた。しかし、3年の教材では、文体を意識して推敲するという高度なスキルが求められており、指導内容のレベルが急に上がっていた。また、中学生が書いたという設定の例文に「静謐」という単語が使用されており、具体例として現実味に欠けるのではないかと思われた。

交流に関する小教材について、平成18年度版と平成24年度版で、観点に沿って作品を相互評価するという点では共通していた。ただし、平成18年度版では全学年で、1年間に書いた作品をまとめて作品集を作り、その中から自分で作品を選ぶことが求められていたのに対し、平成24年度版では、取り上げる作品(1年・絵画の鑑賞文、2年と3年・意見文)があらかじめ決められていた。

平成18年度版、平成24年度版ともに、解説文に書くことの再帰性に関する記述を含んだ教材はなかった。

4 総合考察

本研究の目的は、中学校国語教科書の「書くこと」教材について、平成10年版学習指導要領が反映された現行の教科書教材を比較対象としながら、平成20年版学習指導要領が反映された新版の教科書教材を分析し、その特徴を明らかにすることであった。

分析の結果、出版社を問わず、新版の教科書教材では、(1)学習目標、学習の見通し、学習の振り返りが設定されている、(2)課題設定から交流に至る過程を一通り扱った教材が多い、(3)言語活動例に示された内容を中心に教材化されている、という特徴が見られ、平成20年版学習指導要領や解説(文部科学省、2008)の影響が強く窺われた。

他にも、出版社によって多少の差はあるが、全体的に、材料の分類・整理をすること、観点に沿って材料収集や相互評価をすること、等が重視されており、「思考力・判断力・表現力」(文部科学省、2008, p.1)の育成を意識していることが推察された。

ただし、平成18年度版と平成24年度版の教材を比較すると、いずれの出版社の教材も、必ずしも改善点ばかりではないことも示された。

例えば、本研究で注目した「書くことの再帰性」について直接言及した教材は見あたらず、課題設定から交流に至る過程も一方向的に扱われていた。また、書くことの再帰性を端的に表す活動である推敲についても、内容に関する推敲の扱いがきわめて少なかった。推敲の扱いが少ないことは、清道・柴田（2011）による新版の小学校国語教科書の分析結果と同様であった。

以上より、新版の教科書における「書くこと」教材は、過去の教科書教材（清道，印刷中）と同様に、学習指導要領や解説の記載内容、特に、教材化しやすい、分かりやすい部分は忠実に反映されていても、それ以外に必要な改善が十分なされていないといえる。

もちろん、教科書検定制度が存在することを考えれば、学習指導要領を意識して教材が作成されることは当然だろうし、その結果、改善される点も多い。しかし、学習指導要領に書かれた目標の中には、学習指導要領だけに目を向けていては実現できないものもある。

例えば、平成20年版学習指導要領の「文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる」という、書くことの指導において最も重要な目標は、書くプロセスを一方向的にとらえている限り、達成することは難しいだろう。

今後の「書くこと」教材を考える上で、学習指導要領に記載されているかどうか、教材に反映させやすいかどうか、にかかわらず、書くことの指導において本質的に必要なことは何か、という視点を加えることが強く求められている。

【注】

- (1) 平成10年版学習指導要領での学年目標は、1年「必要な材料を基にして自分の考えをまとめ、的確に書き表す力を高めるとともに、進んで書き表そうとする態度を育てる。」、2・3年「様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身に付けさせるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。」であった。
- (2) 「書くこと」の指導事項は、平成10年版学習指導要領の「発想や認識についての指導事項、事柄や意見についての指導事項、選材についての指導事項、構成についての指導事項、記述についての指導事項、推敲についての指導事項、評価・批評についての指導事項」（文部省，1999）から、平成20年版学習指導要領の「課題設定や取材に関する指導事項、構成に関する指導事項、記述に関する指導事項、推敲に関する指導事項、交流に関する指導事項」（文部科学省，2008）へと変化した。
- (3) 「書くこと」の言語活動例として、平成10年版学習指導要領では全学年共通で「(ア) 説明や記録などの文章を書くこと、(イ) 手紙や感想などの文章を書くこと、(ウ) 報告や意見発表などのために簡潔で分かりやすい文章や資料などを作成すること」、平成20年版学習指導要領では1年「(ア) 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと、(イ) 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと、(ウ) 行事等の案内や報告をする文章を書くこと」、2年「(ア) 表現の仕方を工夫して詩歌をつくったり物語などを書いたりすること、(イ) 多様な考えがができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと、(ウ) 社会生活に必要な手紙を書くこと」、3年「(ア) 関心のある事柄について批評する文章を書くこ

と、(イ) 目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集すること」が挙げられていた。なお、「書くこと」を扱う授業時数(単位時間)は、平成10年版学習指導要領が各学年における国語科総授業時数(1年140単位時間、2・3年105単位時間)の10分の2～3程度(1年28～42単位時間、2・3年21～32単位時間)、平成20年版学習指導要領が1・2年30～40単位時間程度(国語科総授業時数140単位時間)、3年20～30単位時間程度(国語科総授業時数105単位時間)、であった。

- (4) 採択率は、平成23年度が光村50.4%、三省15.0%、東書14.4%、教出16.9%、平成24年度が光村63.8%、三省6.5%、東書13.8%、教出12.7%(内外教育、2011,12,2)であった。
- (5) 他領域(「読むこと」、「話すこと・聞くこと」等)との複合教材であっても、「書くこと」について一定以上の扱いがあれば、書くことを主な目的とした教材に含めた。
- (6) 表2・4・6・8は、書くときの注意点と課題だけを扱っている教材、編集活動が中心で書くことをほとんど扱っていない教材、他領域の内容が解説文の大部分を占めている教材、特定の活動を重点的に解説した小教材を除いて作成した。ただし、分析は表1・3・5・7に示したすべての教材を対象として行った。

【引用文献】

- Hayes, J. R., & Flower, L.S. (1980) Identifying the organization of writing processes. In L. W. Gregg, & E. R. Steinberg (Eds.), *Cognitive processes in writing* (pp. 3-30). Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- 文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領解説・国語編.
- 文部省 (1999) 中学校学習指導要領(平成10年12月)解説-国語編-東京書籍.
- Scardamalia, M., & Bereiter, C. (1987) Knowledge telling and knowledge transforming in written composition. In S. Rosenberg (Ed.), *Advances in applied psycholinguistics vol. 2: Reading, writing, and language learning* (pp.142-175). Cambridge, New York: Cambridge University Press.
- 清道亜都子 (2010) 中学校国語教科書における意見文指導単元の変遷に関する一考察. 読書科学, 53 (1/2), 34-45.
- 清道亜都子 (印刷中) 中学校国語教科書「書くこと」教材の分析-書くプロセスに注目して-名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学), 58 (2)
- 清道亜都子・柴田好章 (2011) 認知心理学的知見を踏まえた国語教科書「書くこと」教材の分析-小学校学習指導要領改訂による変化を中心に-中等教育研究センター紀要(名古屋大学), 11, 39-84.
- 浦上博文 (2005) 初等・中等教育における作文教材の変遷-昭和37年版・47年版・56年版中学校国語教科書の場合-岡山学院大学・岡山短期大学紀要, 28, 63-77.

表 1 教材の概要に関する結果 (光村図書)

平成 18 年度版

学年	教材名	頁数	学習内容	目標	見通し	振り返り
1 年	わかりやすく説明しよう	6	目的・相手に応じて依頼文や紹介文を書く	収集・整理・構成	○	○
	手紙を書こう	3	形式を整え依頼の手紙を書く	-	×	○
	調べたことを正確に伝えよう	5	課題について調べたことをレポートにまとめる	テーマ・収集・構成・記述	○	○
	体験を伝え合おう	4	心に残る体験と自分にとっての意味を書く	収集・記述	○	○
	読書記録を書く	1	読書記録・読書感想文を書く	-	×	×
2 年	人物紹介パンフレットを作ろう	6	人物紹介のパンフレットを作る	整理・記述	○	○
	根拠を明らかにして書こう	5	意見文を書く	収集・構成	○	○
	視点を変えて書こう	5	他のものの視点から自分について書く	テーマ・収集・記述	○	○
	小さな「物語」を探る	5	インタビュー記事を書く	収集・整理	○	○
	読書紹介をする	1	本の紹介カードを書く	-	×	×
3 年	新聞の特徴を生かして書こう	8	身近な出来事を新聞記事にする	記述	○	○
	説得力のある文章を書こう	5	提案を意見文に書く	収集・構成	○	○
	未来に向かって	4	自分が書いた文章や好きな言葉を集めてアルバムを編集する	-	×	○
	読書記録を工夫する	1	詞華集を作る	-	×	×

平成 24 年度版

学年	教材名	頁数	学習内容	目標	見通し	振り返り
1年	わかりやすく説明しよう	5	目的・相手に応じて説明文を書く	収集・整理・構成	○	○
	項目を整理して伝えよう	4	学校行事の案内文を書く	収集・整理・記述	○	○
	調べたことを報告しよう	5	課題について調べたことをレポートにまとめる	整理・構成・記述	○	○
	感じたことを文章にしよう	6	絵画や彫刻の鑑賞文を書く	収集・記述・交流	○	○
	故事成語を使って体験文を書こう	1	故事成語の意味と同じような体験について書く	-	×	×
	説明のしかたを工夫しよう	4	目的や相手に応じて説明文を書く	整理・記述	○	○
2年	気持ちを含めて書こう	4	形式に沿って手紙を書く	記述・推敲	○	○
	立場と根拠を明確にして書こう	5	立場と根拠を明らかにして意見文を書く	収集・構成・推敲	○	○
	表現のしかたを工夫して書こう	4	自分を見つめる別の視点を定めて物語を書く	記述・交流	○	○
	身近な人の「物語」を探る	5	インタビューをして文集にまとめる	収集・整理・記述	○	○
	人物の特徴をとらえて論じよう	1	「平家物語（属的）」の登場人物を論じる文章を書く	-	×	×
3年	説得力のある考えを述べよう	4	社会生活の中から関心のある事柄を選んで批評文を書く	収集・整理・構成・記述	○	○
	推敲して、文章を磨こう	1	課題文をポイントに沿って推敲する	-	×	×
	文章の形態を選んで書こう	4	内容にあった形態で文章を書き修学旅行記を作る	テーマ・交流	○	○
	お薦めの古典を贈ろう	1	古典の言葉を引用して、相手に自分の思いを伝える文章を書く	-	×	×
	論理の展開を工夫して書こう	1	2つの社説を読んで意見文を書く	-	×	×
	三年間の歩みを編集しよう	5	3年間の学習記録をポートフォリオにまとめる	テーマ・交流	○	○

表2 解説文とモデル作品に関する結果 (光村図書)

平成 18 年度版

学年	教材名	テーマ	材料収集	材料整理	構成	記述		推敲	交流		モデル作品	
						下書き	書くときの注意		書き上げる前	書いた後	下書き	清書
1年	わかりやすく説明しよう	▲	●	●	▲	×	○	×	×	×	×	○
	手紙を書こう	▲	×	×	▲	○	○	△	×	△	×	●
	調べたことを正確に伝えよう	●	●	○	▲	×	○	×	×	△	×	●
2年	体験を伝え合おう	●	●	×	▲	○	○	△	×	△	×	○
	人物紹介パンフレットを作ろう	●	○	○	×	○	○	×	○	△	×	●
	根拠を明らかにして書こう	▲	●	△	●	×	○	×	○	△	×	●
3年	視点を変えて書こう	●	●	×	×	×	○	×	×	△	×	○
	説得力のある文章を書こう	▲	●	×	▲	×	○	○	○	△	×	○

学年	教材名	テーマ	材料収集	材料整理	構成	記述		推敲	交流		モデル作品	
						下書き	書くときの注意		書き上げる前	書いた後	下書き	清書
1年	わかりやすく説明しよう	●	●	●	▲	×	○	×	○	×	×	●
	項目を整理して伝えよう	▲	○	●	△	○	○	○	△	×	×	○
	調べたことを報告しよう	●	○	●	▲	×	○	△	△	×	×	○
2年	感じたことを文章にしよう	●	●	▲	△	×	○	×	△	×	×	○
	説明のしかたを工夫しよう	▲	●	●	▲	×	●	×	○	×	×	●
	気持ちを込めて書こう	▲	○	×	▲	○	○	○	△	×	×	●
3年	立場と根拠を明確にして書こう	●	●	△	●	○	●	△例	○	×	×	●
	表現のしかたを工夫して書こう	●	●	×	▲	×	○	×	○	×	×	●
	説得力のある考えを述べよう	▲	○	○	▲	○	●	○	△	×	×	●
3年	文章の形態を選んで書こう	●	△	△	△	×	○	×	△	○	×	○

(注：表2・表4・表6・表8共通)

テーマ・材料収集・材料整理・構成：○具体的活動・観点あり(●+例あり) △抽象的教示のみ(▲+例あり) ×言及なし
 記述(下書き)：○言及あり ×言及なし
 記述(書くときの注意)：●具体的注意・表現例あり ○具体的注意あり △抽象的教示のみ ×言及なし
 推敲：○具体的観点あり △抽象的教示のみ ×言及なし 例・例あり
 交流(書き上げる前)：○活動あり ×活動なし 交流(書いた後)：○具体的観点あり △抽象的教示のみ ×言及なし
 モデル作品(下書き)：○あり ×なし 修・修正跡あり ふ・ふせんアドバイスあり
 モデル作品(清書)：●脚注あり ○作品のみ ×なし

表3 教材の概要に関する結果（三省堂）

平成18年度版

学年	教材名	頁数	学習内容	目標	見通し	振り返り
1年	「自分新聞」をつくろう	5	自分を紹介するための新聞を作る	整理	○	○
	せりふとト書き	2	4コマ漫画や写真をもとに、せりふとト書きを書く	-	×	×
	レポートを書こう	7	調べたことをレポートにまとめる	収集・整理・構成	○	○
	体験文を書こう	6	体験とそこから考えたことを書く	整理・構成・記述	○	×
	学校案内パンフレットをつくろう	6	グループで学校案内パンフレットを作る	-	○	×
	「事典」に挑戦	3	ものを言葉で説明して事典を作る	-	○	×
	意見文を書こう	5	身の回りのことについて意見文を書く	テーマ・記述・推敲	○	○
2年	変わり身の上話	2	何かになって身の上話をする	-	×	×
	「書評」で楽しむ	4	書評を書く	収集・整理	○	×
	主張文を書こう	5	身の回りのことについて主張文を書く	収集・構成	○	○
3年	季節を感じて	2	絵手紙を書く	-	×	×
	グループ雑誌をつくろう	6	グループで雑誌を作る	-	×	×

学年	教材名	頁数	学習内容	目標	見通し	振り返り
1 年	一枚レポートを書こう	6	調べたことをレポートにまとめる	整理・構成・記述	○	○
	体験文を書こう	6	体験とそこから考えたことを書く	テーマ・収集・構成・記述	○	○
	鑑賞文を書こう	4	絵画や写真の鑑賞文を書く	記述	○	○
	学校案内リーフレットをつくろう	4	グループで学校案内リーフレットを作る	推敲	○	○
	私のトップニュースを書こう	4	自分にとって今年一番大きな出来事を新聞記事にする	収集・交流	○	○
	「故事成語」を使って書こう	6	故事成語を使ったショートストーリーを書く	交流	○	○
	せりふとト書き	2	4コマ漫画や写真をもとに、せりふとト書きを書く	交流	×	×
	未来を見つめる	6	自分の決意や思いを漢字や短い言葉に託して表す	記述・推敲	○	○
	読書感想文を書こう	4	読書感想文を書く	記述・交流	○	○
	意見文を書こう	6	社会生活の中から課題を決めて意見文を書く	テーマ・構成	○	○
2 年	見られる側の言い分	2	見られる側の視点になって書く	交流	×	×
	事典をつくろう	4	グループで事典を作る	収集・記述	○	○
	手紙文を書こう	4	相手や目的に応じた手紙を書く	推敲	○	○
	物語をつくろう	4	絵本の一場面から想像して別の物語を作る	記述・交流	○	○
	この人を語る	6	人物紹介のパンフレットを作る	構成・記述・推敲	○	○
	「私の友情論」を書こう	6	資料を引用して「私の友情論」を書く	記述・推敲	○	○
	詩の魅力を伝えよう	4	詩の推薦文を書く	収集・構成・交流	○	○
	主張文を書こう	6	社会生活の中から課題を決めて主張文を書く	テーマ・構成	○	○
	好きな和歌を紹介しよう	6	和歌の紹介文を書く	交流	○	○
	理想のロボット	2	理想のロボットの仕様書を書く	交流	×	×
3 年	大切な言葉で編む	6	自分が大切にしている言葉を集めてアンソロジーを作る	収集・推敲	○	○

表4 解説文とモデル作品に関する結果（三省堂）

平成18年度版

学年	教材名	テーマ	材料収集	材料整理	構成	記述		推敲	交流		モデル作品	
						下書き	書くときの注意		書き上げる前	書いた後	下書き	清書
1年	「自分新聞」をつくろう	×	●	●	×	○	○	×	○	△	○ふ	○
	レポートを書こう	○	●	○	▲	×	○	×	○	△	×	●
	体験文を書こう	○	○	△	●	○	△	△	×	○	×	●
	学校案内パンフレットをつくろう	○	△	×	×	○	○	○	○	△	×	×
2年	「事典」に挑戦	▲	●	○	×	×	○	×	○	△	×	×
	意見文を書こう	○	●	×	○	○	×	○	○	△	○ふ	×
3年	「書評」で楽しむ	○	●	△	×	○	×	×	×	△	○	×
	主張文を書こう	○	○	○	●	○	×	△	○	△	×	×

学年	教材名	テーマ	材料収集	材料整理	構成	記述		推敲	交流		モデル作品	
						下書き	書くときの注意		書き上げる前	書いた後	下書き	清書
1年	一枚レポートを書こう	○	○	×	●	×	○	×	×	○	×	●
	体験文を書こう	○	●	△	●	×	○	△	○	○	×	○
	鑑賞文を書こう	△	○	×	×	×	△	×	×	○	×	○
	学校案内リーフレットをつくろう	×	○	×	×	○	○	△	○	×	×	×
	私のトップニュースを書こう	○	●	×	×	×	○	○	△	○	○ふ	×
	未来を見つめる	○	●	×	×	○	○	○	○	△	○	○
2年	読書感想文を書こう	△	●	×	×	×	○	×	×	△	×	○
	意見文を書こう	○	●	×	×	○	△	△	○	○	○ふ	○
	事典をつくろう	●	○	×	×	×	○	△	○	○	×	○
	手紙文を書こう	△	×	×	▲	○	×	○	○	×	×	●
	物語をつくろう	△	●	×	△	×	△	×	×	○	×	●
	この人を語る	○	●	×	×	▲	×	△	○	×	×	○
3年	「私の友情論」を書こう	×	●	○	×	×	○	○	×	△	×	○
	詩の魅力を伝えよう	○	●	○	●	×	○	×	○	△	×	○
	主張文を書こう	○	●	○	▲	○	×	×	×	○	○	×

表5 教材の概要に関する結果 (東京書籍)

平成 18 年度版

学年	教材名	頁数	学習内容	目標	見通し	振り返り
1 年	あなたも詩人	2	4行詩を作る	-	×	×
	分かりやすく書こう	6	いろいろな説明や記録の仕方を練習する	-	×	×
	根拠を示して書こう	4	説得力のある根拠を挙げる練習をする	-	×	×
	視点を変えて書きかえよう	2	文学作品の視点を变えて書きかえる	-	×	×
	感想を書こう	6	本や映画の感想を書く	-	×	×
	句を付けて遊ぼう	2	前句付けや連句をする	-	×	×
2 年	調べて発信しよう	6	調べたことを報告する文章を書く	-	×	×
	意見を書こう	6	他人の意見に対する反論を書く	-	×	×
	ジャンルを変えて書きかえよう	2	説明文からインタビュー、短歌から随筆に書きかえる	-	×	×
	エッセーを書こう	6	絵・写真・詩をもとにエッセーを書く	-	×	×
	句会を開こう	2	俳句を作り句会を行う	-	×	×
	広告・宣伝文を作ろう	6	歌の解説文を書きCDジャケットを作る	-	×	×
3 年	主張を書こう	6	根拠を示して意見文を書く	-	×	×
	発想を変えよう	2	昔話のパロディや川柳を作る	-	×	×
	時を超える手紙	4	過去を振り返って感謝の手紙や未来の自分への手紙を書く	-	×	×

平成24年度版

学年	教材名	頁数	学習内容	目標	見通し	振り返り
1年	小さな発見を詩にしよう	2	4行詩を作る	記述	×	×
	図表を使って伝えよう	7	図表を入れて「私」の説明文を書く	収集・整理・構成	○	○
	根拠を明確にして書こう	6	根拠を明確にして意見文を書く	収集・記述・交流	○	○
	案内や報告の文章を書こう	2	学校行事の案内や報告の文章を書く	整理・構成	×	×
	鑑賞して良さを表現しよう	7	歌の鑑賞文を書きCDジャケットを作る	整理・構成・記述・推敲	○	○
	短歌のリズムで表現しよう	2	自然の風景や体験を題材にして短歌を作る	記述	×	×
	調べて考えたことを伝えよう	7	課題について調べたことをレポートにまとめる	テーマ・収集・構成	○	○
2年	反対意見を想定して書こう	6	立場を明確にして意見文を書く	構成・記述	○	○
	依頼状やお礼状を書こう	2	依頼状やお礼状を書く	推敲	×	×
	いきいきと描き出そう	7	俳句をもとにして物語を作る	記述・交流	○	○
	俳句を作って句会を開こう	2	俳句を作り句会を行う	交流	×	×
3年	編集して伝えよう	7	グループで日本文化を紹介するガイドブックを作る	記述・推敲	○	○
	観察・分析して論じよう	8	対象を観察・分析し説得力のある批評文を書く	収集・記述・交流	○	○
	今の思いをまとめよう	5	自分を見つめ直して今の思いを手紙に書く	テーマ・推敲	○	○

表6 解説文とモデル作品に関する結果 (東京書籍)

平成18年度版

学年	教材名	テーマ	材料収集	材料整理	構成	記述		推敲	交流		モデル作品	
						下書き	書くときの注意		書き上げる前	書いた後	下書き	清書
1年	感想を書こう	△	●	×	●	×	○	△	×	×	×	○
	意見を書こう	×	●	△	▲	×	○	×	×	×	×	●
2年	エッセーを書こう	●	●	×	×	×	○	×	×	×	×	●
	主張を書こう	▲	●	×	▲	×	×	×	×	×	×	●

平成 24 年度版

学年	教材名	テーマ	材料収集	材料整理	構成	記述		推敲	交流		モデル作品	
						下書き	書くときの注意		書き上げる前	書いた後	下書き	清書
1 年	図表を使って伝えよう	×	●	●	△	○	×	△	○	×	×	○
	根拠を明確にして書こう	×	●	×	▲	×	×	×	○	×	×	●
	鑑賞して良さを表現しよう	○	●	△	▲	○	○	△	△	○	×	●
2 年	調べて考えたことを伝えよう	●	○	△	▲	×	×	×	△	×	×	○
	反対意見を想定して書こう	▲	●	×	▲	×	×	×	△	×	×	○
	いきいきと描き出そう	▲	●	●	●	×	○	△	○	×	×	○
3 年	観察・分析して論じよう	×	●	▲	×	×	○	×	○	○	×	○
	編集して伝えよう	▲	●	△	×	○	○	○	△	○	○	○
	今の思いをまとめよう	●	●	△	×	○	×	△	×	×	×	○

表7 教材の概要に関する結果（教育出版）

平成 18 年度版

学年	教材名	頁数	学習内容	目標	見通し	振り返り
1年	相手や目的に応じて	6	いろいろな説明文を書く練習をする	-	×	×
	感想を明確に	6	体験を通じて感じたことを書く	-	×	×
	書くプロセス1・わたしを語る	2	「わたしの○○史」を書く	テーマ・収集	○	×
	書くプロセス2・学校生活の中から	2	体験を時間の流れで構成した文章で書く	構成	○	×
	書くプロセス3・生き生きした文章	2	体験を物語ふうを書く	記述	○	×
	書くプロセス4・ある日のできごと	2	「書くプロセス3」で書いた文章を観点に沿って見直す	推敲	○	×
	書くプロセス5・わたしの作品集	3	1年間の作品をまとめて相互評価する	交流	○	×
	わかりやすく書くには	6	身近な問題点を見つけて報告レポートを書く	-	×	×
	立場を変えて書く	6	紙上討論をして意見を書く	-	×	×
	相手意識1・「中学校生活ガイド」を作ろう	2	グループで新入生向けの「中学校生活ガイド」を作る	収集・整理	○	×
2年	相手意識2・推薦文を書こう	2	読んだ本を紹介するハンフレットを作る	構成	○	×
	相手意識3・旅の便りを出そう	2	旅先からの便りを書く	記述	○	×
	相手意識4・投書を書こう	2	投書を読んで自分の意見を書く	推敲	○	×
	相手意識5・ミニ文章コンクールを開こう	3	今まで書いた作品を自己・相互評価する	交流	○	×
	根拠をあげて述べる	6	自分の主張したいことを決めて意見を書く	-	×	×
	想像力をはたらかせて	6	絵や写真から物語を作る	-	×	×
	目的意識1・広告を読む	2	コピーを評価する文章とコピーについてレポートを書く	テーマ	○	×
	目的意識2・あんなの魅力	2	自分のお気に入りの品を紹介する文章を書く	収集	○	×
	目的意識3・「規則」か「人としてのやさしさ」か	2	2つの投書を読み比べ自分の意見を書く	構成	○	×
	目的意識4・吾輩は犬ではない？	2	さまざまな文体で書く	記述	○	×
3年	目的意識5・読者の声を聞いてみる	1	自分の作品集を作り相互評価する	交流	○	×

学年	教材名	頁数	学習内容	目標	見通し	振り返り
1年	書くプロセス0・「書く」学習を始める前に	2	書くプロセスを確認し自己紹介文を書く	-	○	○
	書くプロセス1・材料を集めて自分の思いや考えをまとめるには	2	読書ノートを書く	テーマ・収集	○	○
	書くプロセス2・構成を工夫して書くには	2	体験を時間の流れで構成した文章で書く	構成	○	○
	書くプロセス3・根拠を明確にして書くには	2	絵画の鑑賞文を書く	記述	○	○
	書くプロセス4①・相手や目的に応じてわかりやすく書くには①	2	学校行事の案内を書く	推敲	○	○
	書くプロセス4②・相手や目的に応じてわかりやすく書くには②	2	学校行事の報告を書く	推敲	○	○
	書くプロセス5・文章を読み合い自分の表現に生かすには	2	相互評価して自分の作品の批評文を書く	交流	○	○
	情報を選び効果的に伝えるには	6	調べたことをレポートにまとめる	整理・構成・記述	×	○
	相手にわかりやすく伝えるための方法	1	構成の型や5W1Hについて知る	-	×	×
	相手意識1・資料を収集して自分の考えを書くには	2	地域社会を改善するためのレポートを書く	テーマ・収集	○	○
2年	相手意識2・構成のしっかりした文章を書くには	2	東書を読んで自分の意見を書く	構成	○	○
	相手意識3①・心情が効果的に伝わるように書くには①	2	人物設定を工夫して物語を作る	記述	○	○
	相手意識3②・心情が効果的に伝わるように書くには②	2	発見や感動を詩で表現する	記述	○	○
	相手意識4・感謝の気持ちを形にするには	2	形式をふまえた礼状を書き推敲する	推敲	○	○
	相手意識5・できあがった文章を読み合うには	2	「相手意識2」で書いた意見文を相互評価する	交流	○	○
	立場を決めて意見を述べるには	7	4コマ漫画を読んで意見文を書く	構成	×	○
	目的意識1・文章の形態を選択して書くには	2	コピーを通して社会について考えたことを書く	テーマ・収集・構成	○	○
	目的意識2・説得力のある文章を書くには	2	2つの投書を読み比べ自分の意見を書く	記述	○	○
	目的意識3・文章全体を整えて書くには	2	文体を工夫して書きかえた文章を推敲する	推敲	○	○
	目的意識4・説得力のある文章にするには	2	「目的意識2」で書いた意見文を相互評価して書き直す	交流	○	○
3年	文章を書きものの見方や考え方を深めるには	6	歌詞のメッセージを読み取り批評文を書く	構成・記述・交流	○	○
	テーマに合った文章を組み合わせるには	3	テーマを決めて「私の作品集」を編集する	-	×	○

表8 解説文とモデル作品に関する結果 (教育出版)

平成 18 年度版

学年	教材名	テーマ	材料収集	材料整理	構成	記述		推敲	交流		モデル作品	
						下書き	書くときの注意		書き上げる前	書いた後	下書き	清書
1年	感想を明確に	●	●	△	●	○	○	○	×	△	×	×
2年	わかりやすく書くには	●	○	×	×	○	○	×	○	○	×	○
3年	根拠をあげて述べる	●	○	×	●	×	×	×	○	△	×	×

平成 24 年度版

学年	教材名	テーマ	材料収集	材料整理	構成	記述		推敲	交流		モデル作品	
						下書き	書くときの注意		書き上げる前	書いた後	下書き	清書
1年	情報を選び効果的に伝えるには	▲	▲	○	▲	○	●	△	×	○	×	●
2年	立場を決めて意見を述べるには	●	●	●	▲	○	●	△	×	△	×	●
3年	文章を書きものの見方や考え方を深めるには	●	●	●	▲	×	×	△	○	△	×	○

中学校国語教科書「書くこと」教材の分析

—学習指導要領改訂による変化を中心に—

清 道 亜都子*・柴 田 好 章*

要約

本研究の目的は、中学校国語教科書の「書くこと」教材について、平成10年版学習指導要領が反映された現行の教科書教材を比較対象としながら、平成20年版学習指導要領が反映された新版の教科書教材を分析し、その特徴を明らかにすることである。

平成18(2006)年度から平成23(2011)年度まで使用されていた中学校国語教科書と平成24(2012)年度から使用される教科書について、光村図書、三省堂、東京書籍、教育出版から発行されたもの、全学年分を調査した。

その結果、平成24年度版の教科書では、(1)学習目標、学習の見通し、学習の振り返りが設定されている、(2)課題設定から交流に至る全過程を扱った教材が多い、(3)言語活動例を中心に教材化されている、という特徴が見られ、平成20年版学習指導要領の影響が強く窺われた。

その一方で、平成18年度版、平成24年度版ともに、(1)書くことが再帰的プロセスであることが示されていない、(2)内容に関する推敲の扱いが少ない、という点で共通しており、改善すべき課題として示された。

* 名古屋大学大学院教育発達科学研究科

Analysis of teaching units for writing within Japanese language textbooks:

Changes by the revision of the National Curriculum Standards for Junior High Schools

Atsuko SEIDOU*, Yoshiaki SHIBATA*

The purpose of this study was to examine the teaching units for writing within Japanese language textbooks for junior high schools.

The authors surveyed textbooks that were published in Heisei 18 (2006) and Heisei 24 (2012) by four publishing companies (Mitsumura Tosho, Sanseido, Tokyo Shoseki, and Kyoiku Shuppan). Textbooks published in Heisei 18 were reflected the National Curriculum Standards for Junior High Schools notified in Heisei 10 (1998), while textbooks published in Heisei 24 were reflected the National Curriculum Standards for Junior High Schools notified in Heisei 20 (2008).

The results indicated that many teaching units within textbooks published in Heisei 24 (1) contained goals, prospects, and reflection for the study, (2) showed the whole writing process, and (3) treated all the examples of linguistic activities. These characteristics reflected the National Curriculum Standards for Junior High Schools notified in Heisei 20.

Meanwhile, both textbooks published in Heisei 18 and ones in Heisei 24 did not show that writing was a recursive process and writers should make revisions about content. Therefore, these problems needed to be solved immediately.

* Graduate School of Education and Human Development, Nagoya University